

## 会議録（要点録）

会 議 名	第3回 第4次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和6年7月26日(金)午後7時00分～8時40分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 801会議室	
出席者氏名	参 加 者	川島弘嗣、増田正弘、三浦壮次、中村八重、佐藤ますみ、櫻井励造、小室裕美、小林七海 :座長 :副座長
	教育委員会事務局職員	長井優治 教育総務課長、狩野貴紀 統括指導主事、福島裕子 統括指導主事、田島裕子 生涯学習政策課長、高橋健司 地域教育推進課長、東郷信一 学校給食課長、中野みどり 学務課長、長田智久 特別支援・情報教育担当課長補佐、大竹南生 教職員課課長補佐
	事 務 局	三枝信博 教育総務課主査
欠 席 者 氏 名	大宝院清孝、矢ヶ崎由香、志村亮介統括指導主事	
次 第	1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画における個別施策(学校教育分野)について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 数	なし	
配 付 資 料 名	・次第 ・資料1-(1) 第4次計画施策体系の変更について ・資料1-(2) 第4次計画における個別施策(学校教育分野)	

	会議の内容
事務局	1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について 「資料1-(1)～(2)」について説明。
座長	今後10年間を通じてめざす教育の姿「1 はちおうじっ子の「生きる力」の育成」の施策1～14について御意見等をいただき、次に「2 学校・家庭・地域の連携・協働による教育の向上」の施策15～25の順番で進めていく。まずは、今後10年間を通じてめざす教育の姿「1 はちおうじっ子の「生きる力」の育成」の各施策について、御意見等をいただきたい。
参加者	P5「5 感性や創造性を育む活動の充実」について、「施策の方向」の1番目、探

	<p>究的な学習の促進をどのように進めていくかについて、「主な取組」を見ていくと、いわゆる調べ学習に終始している。調べ学習は、探究的な学習のスタートではあるが、調べ学習と探究的な学習は似て非なるものとの指摘がある。調べ学習だけに終始してしまうと、八王子市教育委員会が認識している探究的な学習は、調べ学習であるという誤解が生じてしまう。各学校では、学習指導要領にある習得・活用・探究のサイクルを意識して実践していると思われるので、習得・活用・探究のサイクルについて意識した取組があった方が良い。</p> <p>P13「13 主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」について、取組内容が、キャリア教育オンリーになっている。キャリア教育もその一環ではあるが、主権者教育的な視点も必要である。</p> <p>P14「14 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について、「施策の方向」の4番目にある防災教育について、地域と連携した防災訓練とあるが、防災が地域社会への参画という意図を持っているのであれば、「施策14」ではなく「13 主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」の方が良いと思う。その他、「施策の方向」の3番目にある情報教育の推進について、ICTに力を注いでいるように見受けられる。ICTを意識して記載していると思うが、「主な取組」に、「GIGAスクール研究推進校を指定し、教科等における効果的なICTの活用を研究・発表」とあるが、これから先を考えた時に、我々が避けて通れないのが、いわゆる生成系のAIを学校教育の中でどのように位置付けていくかである。国でも指定校を全国に設け、研究をしているところなので、GIGAスクール研究推進校の取組の中に、AIの取組が入っているかもしれないが、八王子市教育委員会としてAIを学校教育の中でどのように位置付けていくのか計画に示した方が良い。</p>
参加者	<p>P13「13 主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」について、キャリア教育に主体を置いているが、子どもたち自らが体験して獲得していくキャリア教育があると思う。具体的にはボランティア活動になるが、例えば、卒業した小学校にボランティアで戻ることや、地域の清掃活動だけではなく、もう少し内部に取り組みするようなシステム作りができないか。他の自治体では子どもがツバメのように卒業した小学校に戻ってきて、自分の成長した姿を小学校に見せるとともに、自分が何かに役に立っているという自己有用感が育っていく仕組みもあると聞いている。そのような置合せのキャリア教育ではない自らが体験できるような仕組み作りがあると良い。</p>
参加者	<p>P4「4 いじめ防止対策の推進」について、「主な取組」を見てみると上面な内容である。教師と生徒との信頼関係が必要で、いじめを見逃さないという内容の取組を入れたほうが良い。</p> <p>P7「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」について、オリパラのレガシーだが、今後10年間続くのか疑問である。オリパラのレガシーはもう薄れてい</p>

	<p>るように感じる。</p> <p>P11「11 教育の機会均等の確保」について、八王子市が経済的に厳しい家庭で塾に行けない子どもたちのために取組を行っていることは知っているが、その内容が記載されていない。</p> <p>P14「14 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について、「主な取組」の部分で、グローバルというと英語とITは重要だと思うが、海外だと評価の軸が日本とは違っている。挑戦することや競争に対して褒めるような評価基準を点数というよりは定性的な部分も含めた評価の仕組みづくりがあると良い。また、プログラミング教育について、今はプログラミンができなくても世界的には競争できる分野がある。プログラミングの先の、例えば生成AIを使いこなすなど、最新の分野を学んでいくことができると進んだ取組になると思う。</p> <p>P10「10 帰国・外国人児童・生徒への就学の支援」について、日本に来た人や帰ってきた人に対する支援だと思うが、日本に来た人や帰ってきた人を受け入れる側の環境作りが必要である。日本に来た人や帰ってきた人が環境に慣れるためには、世界にはいろいろな人がいて、いろいろな考え方があることを子ども達が当然のように理解できるような取組があると良い。</p>
参加者	<p>P5「5 感性や創造性を育む活動の充実」について、「主な取組」の4番目に、「地域運営学校と連携」と1行で書かれているが、1行だけで表せないことがたくさんあると思うので、もう少し具体的な内容を記載した方が良い。</p> <p>P7「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」について、「施策の方向」の4番目に「がんに関する基本的な知識を身に付ける」とあるが、急にがん教育の推進が出てきたような感じがする。なぜがん教育なのか不明確であるとともに、「主な取組」で、外部講師を招へいしたがん教育の実施が、なぜ中学校第2学年なのか、その理由も不明確である。</p> <p>P8「8 特別支援教育の充実」について、1番目の「施策の方向」の「主な取組」にある「地域のバランスに配慮した特別支援学級の増設」について、「地域のバランスに配慮した」とあるが、どういうバランスに配慮するのかが不明確なので、もう少し内容を詳しく記載した方が良い。その他、「主な取組」の3番目の「学校サポーターの充実」について、この取組で充実を指しているのが、学校サポートの枠を増やすのか、または、有償ボランティアの報酬等の条件を見直すのか、何を充実するのか記載する方が良い。</p> <p>P9「9 不登校児童・生徒への支援の充実」について、「施策の方向」の一番下にある「スクールソーシャルワーカーに対して助言指導を行うスーパーバイザーを配置」の「主な取組」に「スーパービジョンの実施」とあるが、「スーパービジョン」が分からない方も多いと思うので、わかりやすい言葉に変えた方が良い。</p>
参加者	<p>P8「8 特別支援教育の充実」について、今の通級の授業は、通常級に戻るための</p>

教育という説明を受けるが、八王子市としては「どこで学んでもいいよ」「学ぶ場所  
はあなたが選んでいいんだよ」というふうに銘打っていると思う。基本的には通常  
級に戻れるような教育を通級に通う子どもに対してしていることについて、整合性  
というより齟齬があるように感じる。

P14「14 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について、グロ  
ーバルということがITと英語ということは分かるが、多文化を学ぶことも必要だ  
と思う。多文化を学ぶことの中には、学校教育ではタブーかもしれないが、宗教に  
ついては今後はきちんと教えた上で世界に子どもたちを放たないと、なぜ宗教がも  
とで世の中が戦争になっているのかわからないまま海外に行っているのではと感じ  
ることがある。私が海外で仕事をしている中で、インドと交流したときに、インド  
に進出する企業側がインドの文化を理解をしていなかったことから、なかなか仕事  
が進まなかった。宗教を含めた多文化について基本的な事を子どもたちに教育して  
いけば受け入れる側としても違うのではと感じている。

参加者

P1「1 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」について、ものすごく内容が薄い。  
この施策を全施策の最初に置いているのであれば、基礎・基本の定着の部分で、も  
う少し何か書くことがあるのではないか。そもそも学ぶ意欲の向上を考えると、こ  
の部分も書かれている内容が非常に薄い。例えば、学ぶことの楽しさとか意義とか  
そのようなことをもっと感じられるような内容があっても良い。基礎・基本を定着  
させることについて、主体的に学ぶことや学習習慣の内容があっても良い。そうい  
った意味で内容が薄いと感じる。学校はもっといろいろなことを行っている。

P2「2 小中一貫教育の推進」について、いずみの森義務教育学校の取組の成果を  
活かすような取組がこの施策に全然出てきていない。2校目となる第二小学校と第  
四中学校の義務教育学校化を進めているのであれば、いずみの森義務教育学校の取  
組の成果を活かす内容があっても良い。

P3「3 自分を大切に、他者を思いやる心の育成」について、「現状と課題」の  
一番下に「多様な体験活動の機会を充実し、一人ひとりが自らの課題を乗り越え、  
他者と協働してより良く生きる力を育てる」とあるが、私は、これは地域でのボラ  
ンティア活動に繋がると思う。一人ひとりが体験的に地域のいろいろな大人達と協  
働して、自分が社会に貢献できることを何か見つけて行動していくということが、  
この施策の内容に合致していくのではないかと思うのでその内容があっても良い。

P5「5 感性や創造性を育む活動の充実」について、探究的な学習の促進について、  
「主な取組」に記載している内容だけではないと思う。例えば、いろいろな授業の  
中で課題解決とか問題解決型の学習プランを立てていると思う。総合的な学習の中  
で行っているような内容をこの施策で取り上げて記載した方が良い。

P6「6 食育の推進」とP7「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」  
について、施策の順番が「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」の方

が内容的に先だと感じる。八王子市として体力向上よりも食育の方が大事と考えているのか。施策の内容を見ると学校教育の中で体力向上や健康教育について具体的に書かれているところを見ると、「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」の方を先にした方が良い。

P8 「8 特別支援教育の充実」について、「施策の方向」等に、インクルーシブという言葉が出てこないのはどうなのかなと思う。その他、学校ではユニバーサルデザインについて考えながら授業しているので、そのような内容があっても良い。

P7 「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」について、がん教育について唐突感があると思う。実際に中学校においては、がん教育を実施しているが、ここにがん教育が唐突に出てくることに、もう少し記載の仕方があるのではと思う。

P9 「9 不登校児童・生徒への支援の充実」について、実際に現場サイドで見ていると、不登校の子どもたちが来たときに学校が対応できるような教室、もしくは別室対応しているところが多くあると思うが、実際に巡回教員が拠点校から巡回して対応している学校もあると思う。別室対応できるような教室を充実するというような内容があっても良いと思うし、不登校の児童・生徒の支援という点でオンライン環境をもう少し整えられないのかと思う。その他、子ども・若者育成支援センターとの連携のところに、子ども・若者育成支援センターの愛称（「はちビバ」）も表記した方が良い。

P10 「10 帰国・外国人児童・生徒への就学の支援」について、「主な取組」の2番目に、「日本語学級における指導の実施」とあるが、「実施」ではなく「充実」にしてほしい。実施しているのは当たり前で、本校では日本語学級の生徒は、年間通して最初は20人を切る状況だが、実際には既に20人を超えている。本来なら4時間指導をしたいが2時間しか指導できないような制限をかけているような状況である。ぜひとも指導の中身を充実させていただきたい。具体的には、支援していただける人を増やすといった人を拡充してほしい。巡回支援という方もいるようだが、そのことも含めて、もう少し充実を図ってほしい。

P14 「14 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について、近隣の大学と連携できないか。留学生と交流することによって外国の文化を学ぶことができる。他の施策では、大学との連携が記載されているので、この施策でも大学との連携ができないものか。その他、民間企業との連携もできないか。

P13 「13 主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」について、取組の中に主権者教育の視点や、ボランティアについての取組を取り入れても良い。

参加者

P12 「12 保・幼・小連携の推進」について、保・幼・小連携の推進だが、中学校まで入れることができないか。小学校の学校運営協議会でよく話になるのが、進学する中学校の内容である。中学校の関係者、校長先生であるとか学運協に属している方に、あえて松枝小学校の学校運営協議会に入っていていただいて、お互いに情報共有

参加者	<p>し、子どもたちをいかに教育していくか考える場になっている。この施策には、保・幼・小連携だけでなく、中学校まで連携するということを表した方が良いのではないか。</p> <p>P8「8 特別支援教育の充実」について、「主な取組」の中に「巡回指導対象の児童・生徒の増加に伴う拠点校の増設検討」とあるが、実際には全ての学校が拠点校ではなく、巡回校が多く存在している中で、巡回校への支援を手厚くしてほしい。教員数も拠点校と違って巡回校の方が少なく、拠点校の場合は専門性を持つ方が多いが、巡回校だと専門性のある方が手薄な状況であり、どうしても学校間で差が起きているような感じを見受けられる。いろいろな方法があると思うが、例えば、人員の増加として学校サポーターを充実させたとしても教員が多くないと支援を充実することができない。「24 学校の組織力の向上」にも関係するが、特別支援コーディネーターをもう少し充実して欲しいと現場からも話が上がっている。今後行ってほしいこととしては、特別支援コーディネーターがフリーの体制で動いているとか、学級担任を持たずに専門性を持たせて巡回心理士の方と一緒に作り上げるなど、巡回心理士やスクールカウンセラーの方をもう少しうまく使うために特別支援コーディネーターの仕事の確立とか、何か計画に取り入れることができないかと思っている。</p>
座長	<p>P9「9 不登校児童・生徒への支援の充実」について、別登校という不登校の子どもも登校できる仕組みはできているが、別室登校支援員に対する研修が今は行われていないので、各学校によって取組がバラバラになっていると感じる。各学校の実情もあると思うが、別室登校支援員に対する研修を取組として入れた方が良い。また、「おいでよ給食」という取組が実施されると思うが、不登校の子どもたちに対する手を差し伸べているところも取組として入れた方が良い。</p> <p>P5「5 感性や創造性を育む活動の充実」について、言葉足らずのところが多いと感じる。例えば「主な取組」の7番目に「近隣大学や高等学校との連携を図り、体験活動を実施」とあるが、イメージが湧かない。あまり細かく書き過ぎて、その内容に縛られてしまうという考えがあって、このような書き方になったのではと思うが、もう少し具体的に書いた方が良い。この施策に限らず取組の内容について具体的に記載することを検討してほしい。「施策の方向」の7番目の「社会体験活動や自然体験の活動などの児童・生徒の多様な体験活動の機会を充実させ」のところで、「主な取組」として「近隣大学や高等学校と連携」はどのように実施するのか疑問である。</p> <p>P7「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」について、運動する場所はどこなのか。「現状と課題」に「自らすすんで運動しようとする態度の育成を図る必要があります」と記載があるがどこでどうやって運動するのか。ハードソフト両方の面でバックアップが必要だと思う。また、先日市内中学校のアンケートで、水</p>

が飲めない子どもたちとあったと思うが、今はスポーツドリンクなどを飲んでいて、その子どもたちは10年20年30年後に糖尿病になってしまうのではないかと心配している。我々が子どものときと比べて、ジュースを多く飲んでいる印象があるので、生活習慣病についても教育の中で情報発信が必要だと思っているので、取組の中に入れていけないか。

P14「14 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」について、「主な取組」の1番目に、スピーキングのことが記載されている。「中学校第3学年を対象としたスピーキング学習教材の導入・活用」としているが、中学校第3学年と計画に記載してしまうと中学校第3学年からしかできない。スピーキングは、低学年からの実施を検討してもらいたい。実施には予算の関係などがあると思うが、計画に記載してしまうと今後10年間は中学校第3学年以外は実施できなくなってしまうのではないか。私としては、予算がつき次第、中学校第2学年や中学校第1学年の早い段階で実施してほしいと思っている。特に高校入試でスピーキングが導入されているので、生徒・児童に、スピーキングについて対応してあげたいと思っている。

P3「3自分を大切にし、他者を思いやる心の育成」、P4「4いじめ防止対策の推進」について、「保護者や地域と連携」や「家庭と地域」といった「保護者」「家庭」という言葉がよく出てくる。例えば、「3自分を大切にし、他者を思いやる心の育成」では、「SNSの適切な使い方を身に付けることができるよう、学校、家庭、地域の連携を図る」とか「4いじめ防止対策の推進」では、「SNSの活用について学校での指導の充実や保護者への更なる意識啓発が必要」と記載されている。それならば、「主な取組」の中に「保護者に関すること」についても取組として入れてほしい。例えば、「保護者も一緒に学ぶ機会を設ける」といった内容の取組を入れたらどうだろうか。

P4「4いじめ防止対策の推進」について、実際にいじめが起きた場合には学校が相談の窓口になると思うが、学校と保護者との信頼関係がうまくいなくなってしまう場合に保護者はどこに相談したらよいのかと思う。その場合に相談できるのは市教育委員会しかないと思う。そうであれば、学校と家庭との間に入るような相談窓口を八王子市として作ったら良いのではないかと思う。学校と保護者との信頼関係がうまくいなくなると保護者はどこに相談していいかわからなくなると思う。そこで悩んでしまい、子どもも保護者も学校に行けず先生と話ができないという悪循環になってしまうので、どこかに相談できる窓口ができれば良いと思う。このことを「4いじめ防止対策の推進」の施策の取組の中に入れていけないか。実現するためには、予算が必要かもしれないが、今まである市の窓口の機能に、学校についての相談も対応できるようにすれば、予算もあまりかけずにやれるのではないかと思うので検討してほしい。

座長

次に「2 学校・家庭・地域の連携・協働による教育力の向上」の各施策について、

参加者	<p>御意見等をいただきたい。</p> <p>P17「17 学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について、問題や課題が起こった場合に学校内だけで解決することは無理だと思っている。地域の中でどこに頼るかということになってくると思うが、情報を共有するケース会議のようなものがなかなか開けない。学校側がその情報をなかなか外に出せないことはあると思うが、スポーツクラブのコーチの方がその子をわかっていたり、フリースクールに通っている場合、フリースクールの先生の方がその子と保護者の対応をわかっていたりというようなことがある。支援ということであれば、ケース会議を開けるようなシステムを構築できないか。主任児童委員であるとか民生委員であるとかそのような方たちに御協力をいただいて、地域の協力者と学校との中で、守秘義務等もあると思うが、学校運営協議会に入っていない方でも、ケース会議に関われるような体制を作ることができないか。</p>
座長	<p>本日欠席の副座長から事前に御意見をいただいているので、ここで紹介する。</p> <p>P17「17 学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について、SNSのトラブルについての「主な取組」に「保護者への積極的・継続的な啓発活動」追加できないか。チーム学校についての「主な取組」に「直接対応できるスクールロイヤーの設置の追加」を追加できないか。</p>
参加者	<p>P17「17 学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について、「施策の方向」の3番目にある「チーム学校の機能を十分に発揮できるよう、外部機関や専門家と連携を図りながら、学校への支援を充実させていきます。」のところで、「主な取組」として「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーとの連携強化」とあるが内容が曖昧で、具体的に何を強化するのか記載があると取組として信頼性がおけると感じる。他の自治体では、スクールソーシャルワーカーが、週の半分はここの学校、週の半分はここの学校というふうに担当する学校を決めていて、問題が起きてから取り組むのではなく、普段の状態も観察しながら一緒に問題を解決していこうという仕組みができています。学校数の違いというのは他の自治体との大きな違いとしてあると思うが、2ヶ月に1回来るような方と「チーム学校」となれるのか。もう少し一緒にチーム意識を育むようなシステム作りを具体的な取組として入れてほしい。</p>
参加者	<p>P20「22 学校ICT環境の充実」について、「主な取組」の1番目の「ICT機器を授業でより効果的に活用できる環境面の計画的な整備」だが、環境面というのが最低限のネットワーク速度を保つのか、学習しやすいアプリを入れるのか、教員が自分で考えたコンテンツを発信するのか、生徒自身がICT機器を使えるような習慣づけをするのかレベルの違いがある。環境面の計画的な整備について何に注視するのか具体的に記載すると内容が明確になる。</p>
参加者	<p>P16「16 地域運営学校と地域学校協働活動の一体的推進」について、「施策の方向」</p>

	<p>の一番下のところの「担い手の確保に向けて支援」というところに「学校コーディネーターの育成」とあるが、現状、学校ごとに学校コーディネーターがいるが、その人の資質によって学校をコーディネートする動き方が違う。優秀な学校コーディネーターがいる学校は取組が進んでいるが、取組が何もできていない学校も実態としてある。計画に学校コーディネーターの育成とだけ記載すると、どのような学校コーディネーターを育成するのか不明確である。学校コーディネーターの育成に対するゴールが見えてこない。学校コーディネーターは、社会教育主事や社会教育士に準じた資質とか動き方が必要だと思うので、例えば、社会教育主事や社会教育士に準じた資質の育成のような具体的な育成の方法や育成に対する目標を定めた方が、学校コーディネーターが活躍できる状況が生まれてくると考える。</p> <p>P15「15 持続可能な部活動の推進」について、学校に残す部活動に関することが施策内容の中心だと思うが、小規模な部活動は、いろいろな体験ができる部活動として再編していくことについては、「主な取組」の5番目の「八王子市立学校に係る部活動の方針」に基づく合理的かつ効率的・効果的な部活動の実施」に含まれていると思うが、継続が難しい小規模な部活動に所属している子どもたちをフォローする取組をもっと厚くしてほしい。</p>
参加者	<p>P16「16 地域運営学校と地域学校協働活動の一体的推進」について、小中一貫教育グループおける学校運営協議会のあり方を取組に加えてほしい。学校だけで連携するのではなくて、学校運営協議会同士も連携して考えていくような内容があったら良い。</p>
参加者	<p>どの施策になるかはわからないが、小学校で教科担任制の推進について記載してほしい。</p> <p>P15「15 持続可能な部活動の推進」について、中学校にパソコン部があるが、パソコン部の子どもたちが満足するような活動内容ができている中学校は稀で、子どもたちに教えらる先生がいない。ITに関するフォーラムに中学生が来ていたのでフォーラムに来た理由を聞いたら、「学校でもうちょっとやりたいのだけど、ヒントが欲しくて来ました」と言うぐらい意欲のある生徒はいるが、意欲のある生徒が満足するような、高みを目指せるような活動ができていない。例えば、企業がバックアップしてITについて学びたい子どもたちを集めて無償で教育する団体がある。そこでは、お互いにディスカッションをして一つのプログラミングをしている。この団体のようにITについて学ぶことができる組織を八王子市内で作ってしまえば、各学校で無理に指導を頑張らなくても良いのではないか。企業であるとか、ITを教えたい先生は、その組織に入り力を発揮するような形にすれば、各学校もパソコンの指導に苦しむことも無くなり、また、子どもたちも更に上を目指せるようになると思う。</p>
参加者	<p>P15「15 持続可能な部活動の推進」について、生徒の放課後の豊かな活動の場につ</p>

いて考えると、学校だけではなく地域や学校同士の連携で部活動を充実させていこうということだと思うが、持続可能な部活動の推進ということよりも、「学校部活動と地域活動の推進」というような、もっと広い視野での改革ではないのか。学校の現状として生徒数も少なくなっており、従来の形での子どもたちの活動が保障できない。これからは、地域の力を借りながら、また、学校がアウトソーシングしながら、保護者や地域、民間企業などいろいろなところと繋がって力を借りながら、子どもたちの放課後の活動を充実させるということであるならば、部活動の推進ということよりも、学校部活動と地域活動を一体化して推進していくといった表現の方が良いのではないかと感じる。その他、「主な取組」の3番目の「部活動指導補助員（コーチ）の配置の拡大や、部活動指導員の計画的な配置と配置の拡大」の部分で、「25 学校における働き方改革の推進」の「主な取組」の1番目には「部活動指導員及び部活動指導補助員（コーチ）の配置拡充」とある。中学校サイドとしては、「配置の拡大」ではなく「配置の拡充」にして、部活動指導補助員の数を増やして部活動を充実させてほしい気持ちがある。施策25で「部活動指導補助員（コーチ）の配置の拡充」にするのであれば、この施策でも「部活動指導補助員（コーチ）の配置の拡充」と表現を変更した方が良い。

P17「17 学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」について、「主な取組」の3番目に「学校が抱える問題解決に向けたスクールカウンセラー」とあるが、市独自のスクールカウンセラーは配置できないか。市独自のスクールカウンセラーが配置されると学校はすごく助かると思う。都のスクールカウンセラーは週に1回来るが、他の自治体では経験があるが、週に2回スクールカウンセラーに来ていただくと、いろいろな支援ができたり、八王子市が小中一貫教育を謳っているのであれば、小・中学校で同じスクールカウンセラーとして市独自のスクールカウンセラーが入ることによって切れ目のない支援ができるのではないかと。中学校区で同じ市独自のスクールカウンセラーの方が学校を回っていただければ、不登校のことなどいろいろな形で学校が解決できない課題に対しての支援に繋がると考える。

P20「22 学校ICT環境の充実」について、「現状と課題」に、「デジタルシチズンシップ教育の推進が求められている」とされているが、この課題に対して取組等が何も記載されていない。メディアリテラシーや情報モラルなど、これからは、デジタルシチズンシップ教育は非常に重視される部分であることから、その内容が「施策の方向」や「主な取組」にあった方が良い。

参加者

P15「15 持続可能な部活動の推進」について、別室登校している子どもたちの中には、パソコン環境に埋没し昼夜逆転している子どもがいる。そういう子どもは、パソコンについて詳しい知識を持っているので、学校の枠を超えて不登校の子どもも参加できるようなオンラインの部活があると良いと思う。就労支援に関わっているが、そこでは、人によって得意不得意がわかれていて、コミュニケーションは苦手

だけどパソコンの知識は豊富でホームページの制作には能力を発揮する人がいる。人材を育てる意味でも、義務教育の間にはできるとあると思う。それが、それぞれの強みを活かす教育に結びつくのではないか。

座長

P19「21 学校再編・学校施設の長寿命化等の推進」について、数字を見て多くの人  
が驚くと思うが、生徒数がピーク時に比べて 43%減少している。八王子市は現在小・  
中・義務教育学校あわせて 107 校あり、その学校数を維持するだけで多額の予算が  
必要である。子どもの教育に関することに効率だとか費用対効果という言葉は好き  
ではないが、そうは言っても、現状を維持するために今の子どもたちにどれだけ借  
金を残すことになるのかと考えてしまう。この施策に、スピード感を持って進めら  
れるような内容を入れることができないか。記載してあるのが（仮称）元本郷地域  
義務教育学校の開校のみで、これはもう確定事項なのでじきにできると思う。学校  
を 1 校建てるのに 10 年以上はかかると思われるが、市全体で市立小・中・義務教育  
学校が 107 校あって、そのうち、築年数が何十年と経過している学校がどれだけあ  
って、その学校を全部建て替えるのに何年かかるかを考えるだけで絶望的な気分にな  
る。このような状況で、学校再編を考えていかなければならないが、学校再編は、  
教育委員会だけではなくて町会の仕組みも変えないと実現は難しいと思う。例えば、  
学区が変わって子どもたちが見ている地域と、町会がそのまま大人たちが見てい  
る地域がバラバラだと、子どもたちは敏感なので、自分がどちらを向いて生活すれ  
ばいいのか分からなくなってしまうと思う。これは教育委員会だけでなく、市全  
体で学校再編については議論を進めていただきたい。学校再編の議論は、すごく大  
変なことなので先送りになってきた。しかしながら、学校再編については関連する  
ことも含めて真剣に議論を進めないといけない。学校施設は古くなっている。私が  
とある小学校に関わっているときは、人的被害はなかったが、外壁の落下や校庭の  
陥没が起きている。先ほども申し上げたが、これは、教育委員会だけの話ではない  
ので、市全体で進め方を考えてほしい。

P22「24 学校の組織力向上」について、今どこに行っても、「地域との連携」とか  
「子どもは地域で育てる」など、地域と学校とのタッグがクローズアップされてい  
る。その通りだと思うが、地域と先生方との接点はどこにあるのかと私は思ってい  
る。先生方の働き方改革は非常によくわかるが、学校と地域が連携するためには信  
頼関係がなければ絶対にできないと思う。信頼関係を確立するためにはコミュニケ  
ーションが必要である。立ち話からコミュニケーション、そして信頼関係が生まれ  
て、そこから連携が生まれるのが普通だと思うが、今は、その仕組みが作れていな  
い。残念ながら八王子市に限らず全国的にだと思うが、地域との関係を校長先生に  
全部丸投げしているように思う。八王子市が「地域との連携」「子どもは地域で育  
てる」を謳うのであれば、教育委員会が地域とのかかわり方について学校に対して方  
針を出さないと学校単位では対応が難しいと思う。例えば、地域の行事に先生が参

	<p>加したら、代替えの教員を用意して代休を取れるようにするなど、予算面で問題があるかもしれないが、教育委員会で方針を出さないと地域と学校との連携は無理だと思う。地域と学校との連携について教育委員会が方針を出したら、日本中から注目されると思う。実際に話をしないので保護者は先生方のことがわからない。保護者会も平日の昼間に仕事をしている方も多いため参加できない方も多いため。私の住んでいる地域はお祭りが盛んで、学校の先生方が結構来てくれる。お祭りに先生がいると子どもたちは先生とハイタッチをする。そこに子どもと一緒に来た保護者が先生とコミュニケーションするようになる。地域のお祭りへの参加は先生方の負担になっているのはわかっているが、先生方の負担の軽減については、教育委員会で方針を作ってもらえたら非常に助かる。「地域との連携」はよくわかるが、「学校と連携しようにも先生のことを知らないから連携できない」と地域の方からの話があるので、ぜひ検討していただきたい。</p>
参加者	<p>P22「24 学校の組織力向上」について、「地域との連携」だが、学校の管理職が変わると地域との繋がり方が変わるといろいろなところで聞く。地域との連携については、教育委員会で方針を一本化してもらいたい。「地域との連携」という言葉は、とてもかっこいい言葉なので八王子市の取組としても謳っていいと思うが、もう少し開かれた学校であってほしいと思う。学校管理職によって矛盾が起きないように仕組み作り、教育委員会の方針が大切だと思う。</p>
参加者	<p>希望というよりもお願いだが、副校長先生に校務用の携帯電話を持たせてほしい。副校長先生が校務用の携帯を持っていると、スムーズに進むことがいろいろ出てくるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>学校に校務用の携帯を配備してほしいという御意見について、校外学習や保護者との連絡手段として必要な場面が増えてくると思うので前向きに検討していきたい。</p>
事務局	<p>「4 いじめ防止対策の推進」について、保護者が相談できる窓口を設置してほしいとの御意見をいただいた。現在は、教育委員会だけではなく市の総合経営部にいじめの相談窓口を設置している。その他、教育センターにも相談窓口を設置しているが、きちんと周知されていないところが課題だと感じている。</p> <p>「9 不登校児童・生徒への支援の充実」について、別室指導や巡回相談について御質問をいただいた。現在、都の事業である「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」や「はちっこルーム」を活用している。別室指導支援員は、今年度は25校配置し、都から補助をいただきながら進めている。先生たちの研修は、「オンデマンド研修」で実施している。研修は25校で実施しているため、25校以外にも別室指導をしている学校もあるので、25校以外の学校にも研修の内容はしっかりと情報共有していくことが大事だと考えている。また、支援員同士がつながりを持てるような情報共有ができるような場の設定が大事だと考えている。登校支援コーディネー</p>

事務局

ター研修は、年に2回実施している。今年度は、未然防止の取組として、高尾山学園での一日実地研修も行っている。未然防止のノウハウや、登校が安定しない子どもたちにどのような対応をすれば良いかなど登校支援コーディネーターを対象に研修を行い、各学校に研修の内容を還元できるような取組を実施している。

「1 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」について、内容が薄いとのお意見をいただいた。本市としては、各学校が取り組んでいることが多くあるので、そのことを盛り込みながら、全学校にどのように波及できるか等も含めてもう一度検討する。特に、学習習慣については子どもたちを学校の中で育てていながら、勉強は大事であることについての素地つけたうえで基礎学力の定着があるので、もう少し言葉を足したいと思う。

「2 小中一貫校の推進」について、いずみの森義務教育学校の成果に関することについて、2校目の第二小学校、第四中学校の義務教育学校に関わることであると思うので、いずみの森義務教育学校の成果をこの施策の中にどのように取り入れるかについては持ち帰って検討する。いずみの森義務教育学校で取り組んでいることについて、他の学校でもできることを伝えていく。ただ、他の学校は校舎一体型ではないので、全学校で同じことができることではないので精査していく。

「3 自分を大切に、他者を思いやる心の育成」について、「保護者に関すること」を「主な取組」に入れた方が良いとお意見をいただいた。以前に、SNSリーフレットについて保護者の皆さんと協力して作ったことがあるので、今後10年を見据えた上で保護者の皆さんと取り組んでいけるような内容を検討していきたい。

「5 感性や創造性を育む活動の充実」について、探究的な学習が、調べる学習に特化している形になっているので、現在学校の中で総合的な学習の時間で実施していること等に取り組んでいきたいと考えている。社会体験や自然体験活動をどのように近隣の大学や高校と連携していくかについては持ち帰って検討する。

「6 食育の推進」、「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」の順番について、体力があつての食とも考えられるので、持ち帰って検討する。

「7 体力向上と健康教育の充実に向けた取組の推進」について、がん教育について御意見をいただいた。中学校第2学年でがん教育が行われている理由は、保健・体育の学習計画のなかでは第2学年の実施が多いためである。全学校でがん教育が実施できるようになった理由は、本市に医療センターと東海大学八王子病院ががん教育の連携の拠点病院になっているため、この2つの病院から医師を派遣していただける環境となっており、がんについて医師の生の声を全学校の中学校第2学年に聞かせることに意味があると考えを進めている。そのほか、体力向上の部分で、自らすすんで運動するために必要なハード面については、本市の中に広場や運動場があるので、そのあたりを記載できないか検討していく。また、オリパラのレガシーについては、元々は都の施策の中にあつたため、本市では教育課程に位置付けてい

	<p>るが、持ち帰って検討する。</p> <p>「8 特別支援教育の充実」については、御意見等については持ち帰って検討するが、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインについては、特別支援教育の中で本市でも各学校に教育課程で位置づけ等お願いしているところであるので、言葉として入れていきたいと考えている。</p> <p>「15 持続可能な部活動の推進」について、御意見をいただいたとおり、本市がすすめている「部活動の改革」については、「施策展開の方向」の「5 地域とともにある学校づくり」の施策となっているが、「施策展開の方向」の「7 市民がつながる生涯学習の推進」や「8 誰もが楽しめる生涯学習スポーツ・レクリエーション」の各施策に関連している。今後、子どもたちが地域で育っていく中で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを過ごせるように、または、文化的な活動ができるように部活動改革を進めている。施策自体を「施策展開の方向」の「5 地域とともにある学校づくり」に置いた方がいいのか、「7 市民がつながる生涯学習の推進」もしくは「8 誰もが楽しめる生涯学習スポーツ・レクリエーション」に移すべきなのかも含めて、持ち帰って検討する。その他、学校が無理なく続けられる部活動の形として、平日の2日間1時間程度活動するいわゆる「ゆる部活」であったり、スポーツでいう「トレーニング部」であったり、そういう部活を今学校に設置するように伝えているので、そういった内容も計画に記載したと考えている。</p> <p>他の施策については、持ち帰って検討する。</p>
<p>座長 事務局</p>	<p>部活動改革は、生涯学習の施策とも関連するものなのか。</p> <p>部活動改革については、教育委員会定例会においては必ず生涯学習スポーツ部と学校教育部の両部と一緒に議論を行っている。その観点から、部活動改革に関する施策をどの「施策展開の方向」に置くべきか、今一度検討する。</p>
<p>座長 事務局</p>	<p>3 その他</p> <p>次回の開催予定を事務局から願います。</p> <p>次回の日程は8月27日(火)、場所は市役所本庁舎8階 802 会議室。時間は午後7時からを予定している。</p>
<p>座長</p>	<p>次回の開催通知、会議資料については、後日、電子メールにてお送りする。</p> <p>では、本日はこれにて閉会とする。</p> <p>4 閉会</p>